

平成 30 年度 動物愛護相談センター動物由来感染症調査計画

No	調査項目	継続・新規	内 容	規 模	備 考
1	犬と猫の寄生虫調査	継 続 (5 年目)	糞便検査と剖検による心臓内及び消化管内の寄生虫の調査	犬 10 頭 猫 100 匹	
2	犬と猫のダニ媒介性 SFTS (重症熱性血小板減少症候群) ウイルス抗原モニタリング調査	継 続	センターに収容、管理されている犬と猫のダニ媒介性 SFTS ウイルス抗原モニタリング調査	犬 10 頭 猫 10 匹	前回、H28 年度に抗 SFTS 抗体保有状況調査を実施
3	猫を用いた新たな脳摘法の検討	新 規	狂犬病ウイルス検査のための脳摘出手技について、猫を用いた安全かつ簡便な脳摘法の開発と検証	猫 適宜	

平成30年度 動物愛護相談センター動物由来感染症調査計画

1 目的

都内における動物由来感染症の動態を把握するため、実態調査等を実施する。また、その結果を都民や動物取扱業者に還元することにより、動物由来感染症の発生防止を図り、都民の安全確保、並びに、飼い主・動物取扱業者の適正な動物飼養管理等の一層の充実に資する。

平成30年度の動物愛護相談センター動物由来感染症調査は、上記の方針に従って、過去から取り組んでいる感染症だけでなく、検査に関わる手法の開発も調査項目としている。

2 調査項目

(1) 犬と猫の寄生虫調査

ア 調査理由

犬・猫の体腔内には、回虫、条虫、鞭虫など様々な寄生虫が寄生している。多くは人獣共通の寄生虫であり、人に重篤な症状を起こすものもある。

平成30年度も保有状況の把握のために引き続き調査を行なう。

イ 調査規模

犬10頭、猫100匹

ウ 検査方法

糞便検査と剖検による心臓内及び消化管内の寄生虫の調査

エ 検査機関

動物愛護相談センター 城南島出張所

(2) 犬と猫のダニ媒介性 SFTS(重症熱性血小板減少症候群) ウイルス抗原モニタリング調査

ア 調査理由

平成29年7月に SFTS 患者が飼養している犬・猫の血液や糞便などからウイルスが検出された事例や、体調不良の猫を保護したヒトが咬まれて発症し死亡した事例が発生したことから、厚生労働省は、体調不良の動物等と接する機会のある関係者に対して注意喚起を行った。

また、平成29年10月には、徳島県で、発症した飼い犬の体液などを介したヒトの感染報告があり、世界初の知見が得られた。

東京都においては平成28年度にストックしておいた犬猫血清について抗 SFTS 抗体保有状況を調査したところ、調査した全ての検体が陰性であった。現在の所都内で発見されたとの報告はないが、発生する可能性は十分考えられることから、都内における SFTS の感染リスクの把握を目的として、収容した犬猫を対象として SFTS ウイルス抗原のモニタリング調査を実施する。

イ 検体及び調査規模

センターに収容、管理されている犬および猫の血液 各10検体程度

ウ 検査方法

リアルタイム PCR による抗原検査

エ 検査機関

健康安全研究センター、動物愛護相談センター 城南島出張所

(3) 猫を用いた新たな脳摘法の検討

狂犬病検査のための脳摘出手技について、国立感染症研究所獣医科学部第二室及び狂犬病臨床研究会の助言・指導を受けながら、猫を用いて安全かつ簡便な手法の開発と検証を実施する。

3 実施期間 通年

4 調査結果

東京都動物由来感染症検討会において検討するとともに、詳細については動物愛護相談センターが開催する調査研究発表会で報告する。また、内容を精査して公衆衛生獣医師協議会研究発表会や獣医学会等への外部発表も行う。

また、動物愛護相談センターで実施する講習会等において調査結果や予防法等について普及啓発を行うとともに、動物取扱業監視時の業者への啓発材料としても活用する。